

職員の感染事故について

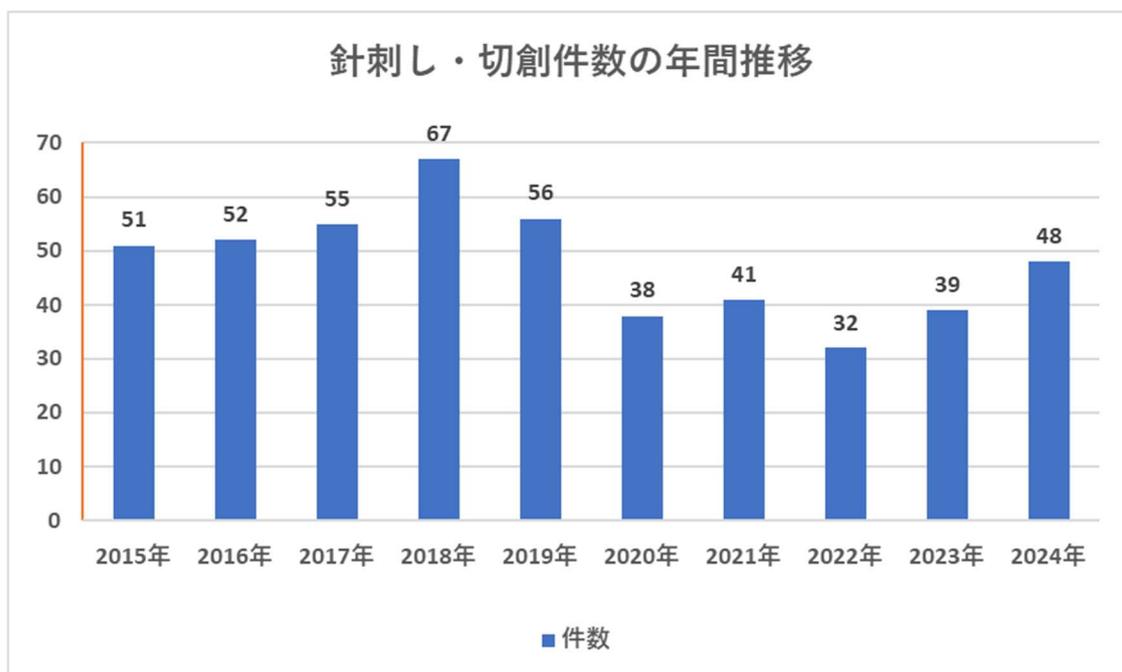
【指標の意義・定義】

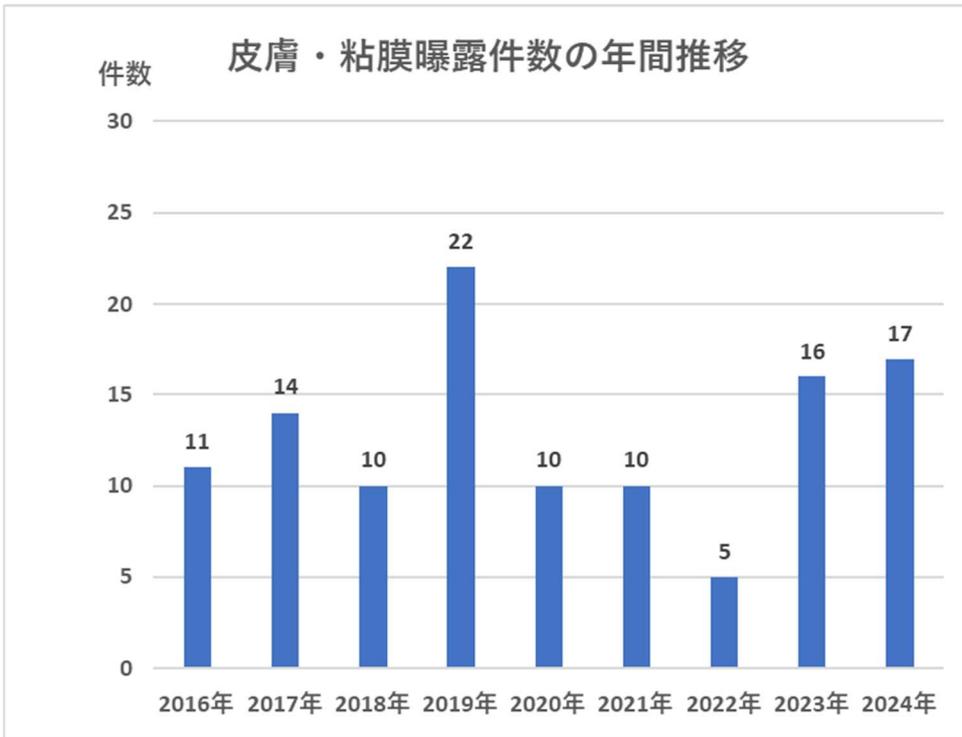
病院で従事するスタッフに起こりうるリスクの一つに針刺し・粘膜曝露がある。これは、患者さんに使用した針が刺さったり患者さんの血液や吐物などが医療従事者の目に入ったりする事故のことで、これにより医療者は何らかの感染症になる可能性がある。

こうした事故が最小限となるよう、当院では安全機材付きの針を使用したり、目をガードする防護具を着用することをルール化している。

当指標は、こうした事故があった際に自己申告され、かつフォローアップを行っている人数を示している。指標における人数増加は適切な安全機材の選択やルールの遵守ができていないことを示す一方、病院組織において事故時に報告しやすい環境が整ってきていることをも示す2つの側面もあり、病院機能評価において有用なものである。

【当院の実績】





【指標の説明】

針刺し件数は例年よりやや低い発生件数だが、コロナ禍後には増加している。皮膚粘膜曝露についても増加傾向である。当院における分析ではリキャップによる針刺し増加とアイガードを使用すべきタイミングでも未装着が提起されている。この2点について重点的な対策を講ずる。